

平成24年度事業報告・収支計算書

海外事業

ジャイラホーム支援事業

実施場所：サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町

実施期間：平成 24 年 1 月～同年 12 月

ジャイラホームはフィリピンの NGO によって設立され、孤児、虐待、育児放棄、貧困など様々な背景によって、親元を離れた子どもたちが生活する児童養護施設です。ACTION 設立時の 1994 年から継続して支援を実施しています。施設運営の自立・子どもたちの生活環境の向上等を目的とする本件では、本年度は下記 4 つの活動を実施しました。

●児童養護施設の自立的運営に向けた農業支援

本件はジャイラホーム内の空き地を菜園として開発することで、無農薬栽培による子どもたちへの安全な食の提供、収穫物の販売による同施設の自給自足体制の確立を目的としたものです。通年の活動として本格的に活動を開始してから 6 年目に当たる本年度は、昨年に引き続き、収穫の安定と、菜園の独立採算化を目標として、苗床の作製、野菜の植え付け、栽培、市場や施設周辺での販売を行いました。

また、今年度は三井住友銀行様より助成金を頂き、ウォーターポンプ購入費、養鶏場の建設費に充てさせていただきました。養殖池用のウォーターポンプではありますが、乾季の水不足の間は畑にも水を撒くことができるので大変助かります。また養鶏場の建設によってジャイラホームの自給自足体制確立にまた一歩近づけると期待しております。

1.3 ヘクタールを農地として利用している畑の方では、今年度は大根、ナス、玉ねぎ、いんげん豆、スイカ、ウポ、チリ、トマト、カボチャ、チンゲン菜等を栽培しました。畑を整備し、順調に苗が育ってきていた矢先、8月にフィリピンを襲った記録的豪雨のせいで畑の作物は土壌ごと全て流されてしまいました。その後もう一度、キャンパーの皆さんにも手伝って頂き畑の整備を行い、地道な草抜き、水やりの結果 11 月・12 月には過去最高の収穫高を記録できました。

また今年度は農業スタッフの入れ替えもあり、今まで担当していたクヤアンディに代わりクヤロバートが新規加入。クヤママルとの二人体制で毎日畑に来て野菜の世話をしてくれています。失敗が多かったからこそ学ぶものも大きかった年でした。今回の反省を生かし、来年度は更に綿密な年間計画を立て、子どもたちに野菜を提供できるよう、月や季節に関わらず安定した収穫を目指します。



グリーンハウス内で順調に育つ野菜



ウォーターポンプを調整する農業スタッフ



収穫した野菜と子どもたち

●空手を通した青少年育成プログラム

本プロジェクトは子どもたちが空手の修養を通して忍耐力を養い、強い意思や規律、礼儀を身につけて社会に出ていくことを目的とした青少年教育です。昨年度に引き続きジャイラホーム内に設置された極真空手道場で現地指導員のもと、週5日稽古が行われ、施設のこどもと地域のこどもが共に稽古に励んでいます。

子どもたちのモチベーションを高めるため、今年度より出席シートを作成しました。ラジオ体操の出席シートの様なので、毎日稽古に参加したこどもには出席スタンプが押されます。自分の頑張り具合が目で見えるので、子どもたちのモチベーション向上に大いに役立っています。多い月では3人もの皆勤賞者を出す事ができ、子どもたちの技術・体力・忍耐力は確実に向上しています。その成果もあってか、今年の外部の大会では入賞者を出す事もできました。

稽古に熱心に取り組み、実力の伴うこどもには以前のように日本の試合へ招待されるチャンスがあるかもしれません。中には「日本に行くんだ」と目標を掲げ、毎日稽古に参加しているこどももいます。このまま稽古に励み、心身共に健康になってもらいたいと思います。



マニラの大会での入賞者



皆勤賞として代表から表彰を受ける様子



練習後の集合写真

●パキュット基金

ジャイラホームは資金不足が深刻であり、スタッフの給料未払いが頻発しています。このためにスタッフが継続して働けないという事は、子どもたちの親代わりである「ハウスペアレンツ」が頻繁に入れ替わるということを意味し、子どもたちの生活面にも精神面にも悪影響を及ぼし、児童が健全に成長できる環境を提供するという児童養護施設の目的を果たすことが難しくなります。そのため本件では昨年度に引き続き、給料の半額を支援することでスタッフを支え、子どもたちが健全に成長できる環境を維持するという目的で給与支援を実施しました。

昨年度に引き続き ACTION 年会費に統合する形をとり、子どもたちの世話をするハウスペアレンツ 6 名、ソーシャルワーカー 1 名、スタッフ 1 名、計 8 名のスタッフの給与半月分である 22,828 ペソを毎月支援しました。



ハウスペアレンツと子ども達①



ハウスペアレンツと子ども達②



ハウスペアレンツと子ども達③

●子どもたちの精神ケアプログラム

本年度よりフィリピン事務局に新スタッフが加入しました。心理士の Adra Matias です。様々な背景を抱える子どもたちにはより専門的な精神ケアが必要であり、心理士の彼女の指導のもと、ジャイラホームと盲ろう学校の子どもたちに対して様々なアクティビティが行われています。

毎週行われているのは日記交換です。普段なかなか思っていることを口に出せない子どもたち中にはおり、日記を通じて彼らの心境を知ることができます。また毎月末にはジャイラホームのスタッフが全員参加し、子どもたちと交流を深めるゲームや、また月のテーマに応じてゲストスピーカーを招き、お話していただく講演会なども実施しています。

一人一人の話をゆっくりきちんと聞いてくれる心理士 Adra Matias に対する子どもたちの信頼度は高く、スタッフ間ミーティングでも彼女がいると笑顔が絶えません。彼女を導入したお陰で子どもたちにとって信頼できる大人が増え、またジャイラホームのスタッフと子どもの間にも交流が増えました。そして今まで見えていなかった子どもの心の問題にも気付く

ことができました。

今後も精神ケアプログラムにアクションとして力を注いでいく予定です。来年度からは詳細なプログラム実施年間計画を作成し、さらに内容が密で、子どもに直接還元性のあるものを提供していきたいと考えています。



子ども達に交流会の主旨を説明する心理士



「家族」がテーマの月にハウスペアレンツへ感謝の言葉を



チームごとにダンスを披露する子どもたち

盲ろう学校(ニニョスパグアセンター)自立支援事業

実施場所：サンバレス州オロンガポ市オールドカバラン町

実施期間：平成 24 年 1 月～同年 12 月

ニニョスパグアセンター（以下センター）は、フィリピンの NGO によって運営されている、主に盲・聾啞者を対象とした自立支援施設です。当会では 1998 年より活動の支援を行っています。

本年度は、口唇口蓋裂、内反足患者に対する医療事業支援、センター内に暮らす子ども達へ学用品の寄付、奨学生の学費及び学用品支援を実施しました。また、前年度までに引き続き、2 名の手話講師への給与支援も実施しました。

●医療事業支援

センターでは、口唇口蓋裂・ヘルニア・水頭症・内反足など、体に障がいを持つ子ども達のためにスポンサーを募り、治療や手術の支援を提供しています。

1) 口唇口蓋裂患者

本年度は、3 名の口唇口蓋裂患者の治療支援を実施しました。センターが提携している病院では、手術自体は無料で受けることができますが、病院までの交通費・検査費等が必要となります。また、今回は事前の検診の結果、手術実施前に薬を投与することから治療を開始する必要があったため、当会では事前の検査費や交通費に加えて、治療のための薬代の支援を主に実施しました。

2) 内反足患者

前年度に引き続き、センターで生活している内反足の子ども 1 名の治療支援を実施しました。マニラの病院では定期検診・治療を無料で行ってもらうことができるため、病院までの交通費や食費、矯正器具費などの支援を行いました。

9 月までは 1 ヶ月半に 1 度の頻度で定期健診を受けていましたが、その間も足の回復は順調で、8 月には足の成長に合わせて、矯正器具を新しくこれまでよりサイズの大きいものにしました。また、現在まで足の治療経過が順調であるため、来年以降は 6 ヶ月に 1 度の頻度で定期検診を受け、フォローアップを続けていくことになりました。

なお、これまでは 1 日中、矯正器具をつけて生活しなければなりませんでした。今後は、日中はサンダル等普通の履物、夜は矯正器具といったように、矯正器具の装着時間を徐々に減らして生活していくことになっています。この生活の変

化に患者である子ども自身が一番喜んでおり、現在は以前よりもさらに活発にセンター内を動き、走り回っています。



内反足の子ども(治療前)



内反足の子ども(治療中)

●奨学生の学費及び学用品支援

前年度に引き続き、自宅からセンターに通っている聾唖のこども1名に対し、学費や学用品及び交通費の支援を行いました。本生徒は2011年度をもって基本の手話等の習得が修了したため、6月の新学期開始に合わせて公立の小学校へ改めて入学し、今年度からは公立小学校で勉強を続けています。

●手話講師の給与支援

前年度に引き続き、センターの手話講師2名に対する給与支援を実施しました。また、本講師2名にはこれまで異なる給与額を支給していましたが、10月からは月の半額分の給与支援として、毎月2名に同額の給与支援を行っています。

●制服・学用品の配布

本年度は、新学期に合わせてセンターから公立の高校に通うこども6名に対して制服・学用品の提供を実施しました。また、センター内の学校に通うこども達全員に対して、ノート・クレヨン・ボールペン等の学用品を配布しました。来年度もこども達やセンターのニーズに合わせて学業面の支援を継続して実施していく予定です。



学用品を受け取ったこどもたち



制服を受け取るこどもたち

●バースデーカードの配布

当会では2010年9月より、センターで暮らすこども達全員に対してバースデーカードの配布を実施しています。センターで暮らすこども達の多くが誕生日の日もセンターでいつもと変わらない毎日過ごしており、家族に誕生日を祝ってもらうことも滅多にありません。しかし、センターのこども達にとっても自分の誕生日は1年の中で最も大切な日の1つです。そこで、当会では過去のキャンプ参加者からバースデーメッセージを集め、こども達の誕生日の日や前後にバースデーカードを配布しています。今年度は25名のこども達にカードを贈りました。



バースデーカードを受け取ったこどもたち

ストリートチルドレン支援事業

実施場所：サンバレス州オロンガポ市及び周辺地域

実施期間：平成 24 年 1 月～同年 12 月

当会では、2005 年よりストリートチルドレン・貧困地域支援、児童の権利の啓発等の活動を行っているフィリピンの NGO タタッグ(Tayo Ang Tinig At Gabay = 私達自身が声であり道である)と提携し、子ども達の奨学支援や貧困地域のインフラ整備、ライブリフッド事業の支援を行っています。活動 8 年目になった本年は下記の 2 つの活動を実施しました。

●奨学生支援プロジェクト

今年で 8 年目となる本プロジェクトでは、前年度に引き続き、奨学金支援を行っている NGO 団体、「Growing People's Will (GPW)」様からご協力をいただき、10 名のストリートチルドレンへの奨学金支援を実施しました。子どもたちの多くが放課後や週末になると路上に働きに出たり、ごみ拾いをしたりしながら家計を助けています。また、働く両親の代わりに幼い弟妹の面倒を全て引き受けている子どももいます。このように子ども達にとって厳しい生活は続いていますが、学費や文房具、交通費などの支援を受けることができ、学業面ではお金の心配をすることなく学校に通うことができおり、子ども達にとって大きなサポートになっています。来年度も引き続き、GPW 様にご協力いただき、奨学生の支援を実施していく予定です。

また、前年度より開始したタタッグのストリートエドゥケーター 1 名への奨学支援も引き続き実施し、奨学生のマラは現在、ソーシャルワークのコースに通う大学 2 年生として、日々の勉強に励んでおります。マラはもともとマーケットで働くストリートチルドレンでしたが、たくさんのスポンサーの方に支援していただいているおかげで、現在は学業に集中することができます。タタッグの活動にも変わらず積極的に参加しており、現在では週末に行われているストリートエドゥケーション（路上での教育活動）のリード役として、中心的な役割を担っています。また、学校が長期休暇になるときには以前のようにマーケットに出て働き、学校に通うための交通費や学用品の購入費用を貯めています。当会では、来年度も引き続きマラの奨学支援を行っていく予定です。



GPW の奨学生たち

●コミュニティ改善プロジェクト

本プロジェクトは、タタッグが支援を行っているオロンガポ市内及びその周辺地域から要請を受けた小規模のプロジェクトに対し、支援を行うものです。

8 年目を迎えた本年は、下記の 2 つのプロジェクトを実施しました。

・簡易集会所の設置

実施場所：オロンガポ市サンタリータ地区タバクハン地域

実施時期：平成 24 年 2 月～3 月

タバクハン地域では、タタッグの支援のもと 2009 年から母親グループが活動を行っています。月に 1 回の定例ミーティングを中心として、地域の子ども達の就学支援・奨学生のモニタリング・継続的に活動を行うためのファンドレイジング等を実施しています。しかし、当地域の以前のミーティング場所は屋外であったため、雨季になると月 1 回のミーティングを予定通り開催できないことが多々ありました。また、乾季になると日差しが強いため長時間のミーティングが困難

となっていました。

そこで、今年度の春季ストリートチルドレンワークキャンプにて、天候に左右されることなくミーティングを実施できるよう、当地域に簡易集会所の設置を行いました。

建設作業は建設の技術を持った大工さんに協力してもらい、地域住民と当会のワークキャンプ参加者が力を合わせて実施しました。

完成後は母親グループのミーティングが毎月確実に行われるようになったほか、この場所を利用して、タタッグの若手ファシリテーターたちが地域に住む子ども達・若者たちに対して月に1回程度アクティビティを実施しています。このアクティビティを通して、子ども達は自己分析やセルフコンフィデンス、リーダーシップ等について学んでいます。



建設中の集会所前にて

・ ECCD センター（就学前児童のための学習教室）の修繕・備品の製作

実施場所：オロンガポ市マバユアン地区、サンタリータ地区、オールドカバラン地区、

バタアン州ディナルピハン町ローズベルト地区、ヘルモサ町ティポ地区

実施時期：平成 24 年 8 月～11 月

8 月～11 月には、タタッグが運営する 6 つの ECCD センター（就学前児童のための学習教室）の修繕作業や備品の製作を実施しました。今回対象となった各センターでは、備品や建物の一部の老朽化が進んでいたり、生徒の増加によって備品が不足していたりしたため、夏季に行われたワークキャンプを通して、センターの修繕・備品の製作等を実施しました。

本プロジェクトはブレインヒューマンティリーの皆様にご寄

付のご協力をいただき、実施しました。また、修繕・製作作業にもご協力いただき、8 月上旬に行われたブレインヒューマンティリーワークキャンプでは 6 つの机・3 つのキャビネット・2 つの黒板の製作とマバユアン地区の ECCD センターにて、屋根周りの修繕作業を実施しました。

8 月下旬から 9 月上旬にかけて実施された夏季ストリートチルドレンワークキャンプでは、マバユアン地区の ECCD センターへのトイレの設置とサンタリータ地区・ローズベルト地区の ECCD センターでの壁のペンキ塗りを実施しました。ワークキャンプ実施期間中に完了しなかった作業に関しては、地域住民が引き継いで実施し、11 月末までにほぼ全ての作業が完了しました。

本プロジェクトの実施により、各 ECCD センターの学習環境・衛生環境が改善され、以前よりも子ども達が勉強に専念しやすくなりました。



セメントリレーをする参加者たち



子ども用トイレ建設中の様子

女性のための所得向上事業

実施場所：マニラ首都圏マラボン市、サンパレス州オロンガポ市

実施期間：平成 24 年 1 月～同年 12 月

●オロンガポ市の女性のためのライブリフッド事業

前年度までストリートチルドレン支援事業の一部として実施していた本事業ですが、今年度は女性のための所得向上事業の一部として実施しました。

今年度はレジ袋を利用してつくるバッグやポーチ、雑誌などの紙を再利用してつくるピアス、ビーチサンダルにデコレーションするデコピースンの製作を中心に行いました。現在 4 名のお母さんが各商品の製作を行っており、商品の質も確実に上がってきています。また、過去のスタツア参加者の方が引き続きボランティアで商品のデザインを担当してくださっており、新商品の開発も随時進めています。更に、今後、商品の製作メンバーを増やしていくため、所得向上を目指す女性向けに商品制作のトレーニングも開始しました。来年度は制作メンバーを増やしていくとともに、商品の販売先を広げていくためマーケティングにも一層力を入れて取り組んでいきます。また、ボランティアの方に引き続きご協力いただき、新商品の開発・現商品の改善も随時進めていく予定です。

なお、昨年まで実施していた「アルミパックジュースの袋を再利用したリサイクル商品」の製作ですが、製作担当のお母さんの体調不良により、今年度は実施を見合わせました。

また、来年度以降は本事業の対象者を現地のパートナー NGO タタッグの受益者である母親グループのメンバーに限定してサポートを行っていくため、来年度からは再びストリートチルドレン支援事業の一部として本事業を実施していく予定です。



トレーニング中の様子



ライブリフッド商品①



ライブリフッド商品②

●マラボン市の女性のためのライブリフッド事業

本事業は 2009 年に開始した事業で子どもたちが健全に成長できる家庭環境をつくるため、また街の美化のために行われているものです。現在では約 50 名の女性が商品の製作に携わっており、今年度は渋谷パルコや渋谷ヒカリエでの販売が実現しました。



JICA 草の根パートナー事業

実施場所：中部ルソン地方全域（オーロラ州を除く）

実施期間：平成 24 年 10 月～同年 12 月

本事業は「フィリピン・中部ルソン地域における児童養護施設のこども達の健全育成と自立のための施設職員能力強化プロジェクト」として、日本国際協力機構（JICA）より委託を受けて今年度 10 月より開始した 3 ヶ年の事業です。

●フィリピン・中部ルソン地域における児童養護施設のこども達の健全育成と自立のための施設職員能力強化プロジェクト

本事業は中部ルソン地方全域にある児童養護施設を対象にして、施設職員であるソーシャルワーカー・ハウスペアレント向けの研修プログラムを開発し、実施するというものです。また、本事業ではフィリピンの政府機関である社会福祉開発省（DSWD）第三地域事務所が当会のカウンターパート機関となり、協働で実施していきます。

当会では 1994 年から児童養護施設の支援を行ってきていますが、これまでの活動の中で施設が抱える多くの課題に直面し、一緒に解決の道を模索してきました。それらの課題の中には施設職員が抱える課題も多くあったため、昨年度に本事業を JICA に提案し、今年 10 月より事業を開始するに至りました。

今年度はプロジェクト初年度であったため、プロジェクトスタッフの新規雇用・フィールド事務所の手配等を事前に行い、事業開始の 1 ヶ月前に事務所をオープンし、同時にスタッフも勤務開始となりました。

10 月に対象地域内の児童養護施設の施設長会議に参加し、事業の主旨を説明するとともに事業への参加を呼びかけました。また、当会のスタッフが各施設を個別に訪問し、施設向けにオリエンテーションを実施しました。

11 月 20 日に公式にプロジェクト開始式を実施し、JICA フィリピン事務所 NGO デスクの見宮様にもお越しいただき、当会代表横田と DSWD 第三地域事務所所長の 3 名による契約書へのサイン式も執り行われました。また、開始式後は再び当会のスタッフが各施設を訪問し、各施設の事業への参加意思確認を行っており、来年 1 月末までに完了予定です。

12 月からは DSWD 第三地域事務所の担当職員 7 名との定例会議もスタートし、2 週間に 1 回のペースでミーティングを実施しています。本ミーティングではこれまでにプロジェクトのモニタリング・評価方法の検討、事業実施にあたってのベースライン調査用の資料の作成・調査のプレテストの結果分析等を行い、現在までにベースライン調査時に使用する資料・書類が完成しています。来年度は前期に本事業に参加する意思のある各施設に対してベースライン調査を実施し、施設が抱える問題や課題を確認するとともに、施設職員向けの研修のニーズを分析します。この分析結果をもとに研修用の教材を作成し、来年度 10 月より施設職員に対する研修を開始する予定です。



事業開始式



DSWD との定例会議の様子

ボランティア体験事業

国際協力とフィリピンの子どもたちを取り巻く環境をより多くの市民の方に知っていただくために当会では設立当初の1994年よりワークキャンプという形で国際ボランティア体験事業を実施しています。

本年度は146名の方が全国から参加をしてくださいました。しかし、5年前には200名を数えた参加者数が年々減少してきており、その原因として経済不況や旅行代理店や大学が同じようなプログラムを実施している事や、フィリピンの治安に対する不安感が挙げられます。

国際ボランティア体験事業が占める事業収入の割合が多い当会としまして、その対策として学生ボランティア団体や企業・有志のグループ向けにオーダーメイドのスタディツアーやフィリピンでの研修など、多くの方に参加していただけるプログラム作りを行いました。

その結果、個人、学生団体や美容業界の方など、多くの方々が国際ボランティアに参加してくださいました。

●ジャイラホームワークキャンプ

- ①平成24年2月9日～2月28日 8人
- ②平成24年3月4日～3月13日 1人
- ③平成24年3月4日～3月23日 12人
- ④平成24年3月13日～3月23日 3人
- ⑤平成24年8月7日～8月17日 6人
- ⑥平成24年8月7日～8月26日 6人
- ⑥平成24年8月17日～8月26日 3人
- ⑦平成24年9月4日～9月14日 11人
- ⑧平成24年9月4日～9月23日 8人
- ⑨平成24年9月14日～9月23日 4人

本年度のジャイラホームワークキャンプは、春夏、計9回のワークキャンプを実施しました。本年度のキャンププログラムの特徴としては、前半、後半期間のプログラムを行い、より多くの選択肢の中から参加者に選んでもらうことができる環境づくりに努めました。これによって参加者のニーズを把握することができたため、来年度以降のプログラムづくりに生かしていきます。

また、本年度のボランティアワークでは春期には昨年度から継続してジャイラホーム近くのサンホセという地域のデイケアセンター（保育園）の建設作業に取り組み、二回のキャンプで完成するまでに至りました。夏期のワークキャンプではジャイラホーム内に活動拠点を戻し、孤児院の自給自足体制確立のため鶏小屋の建設作業、農場の整備を行いました。活動地域は別でしたが、春夏関わらず、ジャイラの子どもたち

とのアクティビティやプール、さよならパーティーなどは例年通り実施され、ジャイラの子どもたちとキャンパーの皆さんの交流を深めることができました。



孤児院の子どもとの交流

●ストリートチルドレンワークキャンプ

- ①平成23年2月21日～3月12日 4名
- ②平成24年8月23日～9月11日 12名

本年度は、昨年2週間に変更したプログラムを3週間に戻し、春季と夏季に1回ずつ、計2回開催しました。春季のワークキャンプではタタッグの支援地域であるサンタリータ地区タバクハン地域にて、簡易集会所の設置を行いました。建設作業は参加者と地域住民が協力して行い、1週間のワーク作業期間中に無事作業を完了することができました。また、夏季のワークキャンプでは、タタッグが運営するECCDセンター計6ヶ所の修繕作業と備品の製作作業を実施し、子ども達

の学習環境を改善するためのサポートを行いました。

各キャンプとも3週間盲ろう学校（ニニョスパグアセンター）に滞在し、子ども達と交流しながら過ごしました。子ども達と一緒に生活することで様々な発見、そして多くの学びがあったようです。また、春季ワークキャンプでは子ども達とともに海水浴に出かけ、夏季ワークキャンプでは参加者が子ども達のために遊びを企画・実施し、交流を深めました。週末にはタタッグが行っているストリートエデュケーション（路上での教育活動）にも参加し、路上で働く子ども達の環境を理解するとともに、参加者自身が子ども達のための遊びを企画し、実施しました。ホームステイプログラムでは、各キャンプとも2回のホームステイを実施し、それぞれのホームステイ先でフィリピンの一般家庭の暮らしを実際に体験するとともに、家族の温かさやフィリピンの文化・日常生活を体感することができました。



盲ろう学校の子どもとの交流



ストリートチルドレンとの交流

●スタディツアー

- ①平成24年2月22日～2月26日 6名
- ②平成24年3月20日～3月24日 8名
- ③平成24年8月24日～8月28日 11名

④平成24年9月13日～9月17日 11名

本年度より、スタディツアーの引率を代表の横田が行うことになりました。そこで、プログラム内容が少し変わり、今まで行ってきた各事業地訪問に加えて、横田による講義も行うこととなりました。フィリピンで活動してきた長年の経験を活かした講義は、訪問だけでは学べないことを学ぶ機会となっています。

●ブレンヒューマニティーワークキャンプ

①平成24年8月6日～8月12日 23名(スタッフ6名含む)

2008年以来、4年ぶりにNPO法人ブレンヒューマニティー様のワークキャンプ受け入れを実施しました。本ワークキャンプでは、参加者の中高生17名がECCDセンターの机・キャビネット・黒板等の備品の製作やセンターの屋根の修繕を行いました。また、キャンプ実施期間中は盲ろう学校とホームステイ先に滞在し、盲ろう学校の子ども達との交流を深めたほか、一般家庭へのホームステイを通してフィリピンの家族の在り方、人の温かさ・優しさに触れることができました。また、週末にはタタッグが行っているストリートエデュケーション（路上での教育活動）にも参加し、ストリートチルドレンと遊びを通して交流しました。

フィリピンでの滞在は参加者にとって多くの刺激・学びをもたらし、日本に戻った後の生活や自分の進む道を考えるきっかけとなったようです。

●オーダーメイドスタディツアー

平成23年2月27日～3月6日 9名

学生団体 YELL さんのオーダーメイドスタディツアーを行いました。また、当会が行う孤児院の農業プロジェクトで使用するグリーンハウスの設置費用の寄付をいただいたため、スタディツアー期間中にはグリーンハウス設置のワークもお手伝いいただき、グリーンハウスを設置することができました。

国内事業

●チャリティショップ

オープンから6年目となったチャリティショップですが、2009年のリニューアル以降、より多くの地域にお住まいの方々が訪れてくださるようになりました。また、昨年度から行っているお店をよりよくするためのマーケティングは現在も継続して行っており、本年度は新商品を積極的に入荷しました。来年度はより多くの寄付を集められるように、引き続きボランティアの方々にご協力いただきながら店作りを行いたいと思います。今年度の寄付は総額727,014円でした。



●武蔵野市教育委員会主催

「土曜学校～世界を知る会（小3～6年コース）～」

武蔵野市教育委員会が主催の本講座は、2005年以降継続して当団体は講師として関わっています。本年度は武蔵野市内の小学校に通う3年生～6年生、計24名が参加し全8回の講座を行いました。講座期間中は例年同様、フィリピンの小学生とパートナーを組み、文通やビデオレター、JICAネットでの交流を行ったのですが、過去に当団体でボランティアをしてくださっていた森川綾香様のご協力により、明治安田生命保険相互会社の皆様がボランティアで文通の和訳を担当してくださいました。



JICA ネットでの交流 こどもたちの集合写真

●学校教育との協働授業実践

本年度は以下の学校で協働授業を実践しました。各学校にあわせた内容の授業を実施し、文通やビデオレターの交換を行いました。

武蔵野市立第四中学校（選択社会科）

武蔵野市立第四中学校（職場体験）

武蔵野市立第一中学校

筑波大学附属小学校

狛江市立第五小学校

他

●講師派遣

フィリピンでの活動・経験を日本の地域社会に還元するため、代表の横田と日本事務局の長田を講師として各種セミナー、講演会に派遣しました。

武蔵野市教育委員会「土曜学校」

武蔵野市国際交流協会夏季教員ワークショップ

亜細亜大学ボランティア論

他

●ボランティア派遣

昨年度に引き続き本年度も三鷹市にある児童養護施設朝陽学園へボランティアを派遣しました。派遣項目は以下のとおりです。

朝陽学園

週末遊びボランティア（随時）

バザー

他

●国際協力・交流イベント及び地域イベントへの参加

1) アースデイ(4月21日、22日)

昨年度から出店している代々木公園で行なわれるアースデイには2日間あわせて11万人の方が来場されました。ブースでは sari sari とエコミスの物販を行ない、9名の方がボランティアとして手伝ってくれました。



2) むさしの国際交流まつり(11月18日)

毎年参加しているむさしの国際交流まつりですが、今年は物販の他にタピオカジュースの販売も行ないました。大学生や社会人のボランティアの他に地域の小学生もお手伝いに来てくれました。



●会員企画

当会の会員様が主体的に活動を企画・運営する活動です。本年度、以下のような活動がありました。

1) チャリティお花見

4月15日に井の頭公園でチャリティお花見が行われました。40名もの参加者が集まり、とても盛大なお花見となりました。なお、参加費の一部は寄付となりました。

2) フィリピン笑顔の写真展

5月7日から5月26日の期間に早稲田駅にあるO2cafeで写真展が行われました。

3) 出張チャリティショップ

本企画は大学の学園祭や地域のお祭りなどでチャリティショップの品物の貸し出しを行い、チャリティショップと同じ仕組みで出張チャリティショップを開いていただくという活動です。今年度は群馬県立健康科学大学、聖心女子大学、静岡県立大学の学園祭で出張チャリティショップが行われました。

